

宗教儀礼の機能的体系

——タイ国東北部の一部落ドーン・デーング——

水 野 浩 一

Functional System of Religious Activities in a Rice-Growing Village in Northern Thailand

by

Koichi MIZUNO

1 は じ め に

タイ国は仏教国といわれる。じじつ国内における仏教寺院の数は多く、約18,000寺にのぼり、ほとんどすべての村は自己の寺院を維持している。¹⁾また僧侶は156,952人、見習僧83,529人、寺子119,044人を数える。²⁾しかし他方、村民の間では呪文・護符の効力、霊魂や精霊にかんする信仰と迷信が根強く存在しつづけている。

本稿においては、昨年度調査した東北部村落の資料のなかから宗教生活にかんする部分をできうるかぎり整理し、ここに記述報告したい。村落の宗教にかんしては、すでに指摘されているごとく、⁴⁾仏教的要素、バラモンの要素、アニミズム的要素がそれぞれ独立的に、またときには混合した形で、たがいに相反することなく存在している。これらの要素がどのようにして共存し、また融合しているかを分析することは興味ある問題である。しかし今ここで、宗教儀礼の細部がどの要素に由来するかを逐次ときほぐすほどの資料はないし、またこのようなやり方が各要素の融合接点を明らかにするかどうかとも疑わしい。他方、村民の宗教的知識はこの接合点を浮かびあがらせるほど体系化されていない。かれらの宗教的行為は日常的習慣として無意識

- 1) John E. de Young: *Village Life in Modern Thailand*. Berkeley and Los Angeles, 1958. p. 111.
- 2) Wendell Blanchard et al.: *Thailand—Its People, Its Society and Its Culture*. 1958.
- 3) 京都大学東南アジア研究センターのビルマ・タイ地域調査の一環として1964年から1965年にかけて1年間タイ国に滞在し、東北部の一部落ドーン・デーングのコミュニティー・スタディーをおこなった。報告の一部は「農地所有と家族の諸形態」と題して本誌第3巻第2号に記した。
- 4) Howard K. Kaufman: *Bangkhuad—A Community Study in Thailand*. New York, 1960. pp. 183~209.

のうちに運ばれることが多く、各要素は相互に反発することなく漠然とした一つの信仰体系として村人の目に映じている。本稿においては、各種儀礼の機能と村人の態度に注目しながら、僧侶と祈禱師の役割を記述するにとどめたい。それは覚書としての性格を免れないけれども、僧侶と祈禱師の社会的地位を明らかにするうえで役立つばかりでなく、各要素からなる宗教上の諸慣行を潜在的な一つの信仰体系として把握するための手掛りとして役立つであろう。

以下、僧侶と祈禱師の社会的地位、仏教にたいする信仰と態度、村や家の守護霊としての精霊信仰、クンプラタムと呼びならわされている呪文・護符の効力、除祓儀礼、招魂儀礼の順に記述し、最後にこれらの宗教活動と信仰がどのようなかたちで一体を構成しているかを指摘しておきたい。

2 僧侶と祈禱師の社会的地位

部落内の社会的地位の序列表を示せば次頁のごとくである。この表は被調査者が順位づけをおこなう場合、その人のおかれた社会的状況（例えば親族、友人、近隣、疎遠、反目）がかなり作用しているらしく、序列が集中せず、分散しているが、部落内の一般的傾向を知るのには十分である。

この表から明らかなごとく、社会的地位の平均的序列の第1位は校長、第2位は村長である。僧侶の地位は一般に高く、住職は村長について第3位をしめる。かれらは寺院を中心とする仏教行事をはじめ、葬儀、法要、ときには結婚式⁵⁾、また部落の除祓・増福儀礼において重要な役割を果す。しかし、この部落の僧侶の年齢は若く、また一般の社会生活から遠ざかっているために、仏教行事の文脈をこえて影響力が部落民におよぶことはない。また特殊な知識や技能をもちあわせず、部落民の相談相手となることもない。

部落内には僧侶の他に祈禱師が数名いる。かれらは除祓にかんする呪文・護符に精通しているばかりでなく、占星術、民間医薬療法、ならびに除祓儀礼や招魂儀礼にもすぐれているために村人から非常に尊敬されている。祈禱師数名のうち2名はその術にたけているのみならず、信頼される人柄でもあり、部落でも年長者にあたる。このために部落民にたいする影響力も強く、指導的な古老の地位をしめる。地位の序列表にみられるごとく、これら2名の祈禱師は住職についてそれぞれ第4位と第6位をしめている。表によると、かれらは校長や村長よりも低いけれども、前者の暗黙の承認がなければ部落の重要事項は円滑に進行しない。

3 寺院と村民

部落内にはワット・ポーバンラングと名づけられた寺院があり、隣り部落ドーン・ノーイ

5) このあたりの村村では結婚式に僧侶を招くのはまれである。

表 1 社会的地位の序列

世帯番号	平均順位	順位の範囲	年 令	所有農地(ライ)	注 釈
No. 125	4.0	1~20	45	20.00	小学校校長, C. D. [※]
No. 115	4.8	1~16	50	31.25	村長, C. D., 小売店
住 職	5.3	1~15	25	0.00	見習僧3年, 僧侶2年
No. 105	6.2	1~15	63	70.00	祈禱師, C. D.
No. 94	7.2	1~29	82	76.00	最年長者
No. 113	8.2	2~28	63	56.00	祈禱師, C. D., 寄進総代
No. 84	10.1	2~28	62	29.00	元小学校教員
No. 107	10.2	2~19	55	35.00	元村長, 小精米所
僧 侶	10.5	1~31	22	0.00	見習僧3年, 僧侶1年
No. 114	13.0	5~31	59	25.00	祈禱師
No. 34	13.5	3~28	35	25.00	医療役員, C. D.
No. 75	14.0	3~31	80	43.00	年長者
No. 76	14.2	4~26	56	56.00	寄進総代
No. 33	14.8	5~27	43	19.25	村の委員
No. 74	15.2	2~29	38	0.00	助役
No. 56	15.7	6~29	56	16.00	祈禱師
No. 50	16.0	5~29	26	0.00	小学校教員
No. 99	16.2	8~27	38	49.00	教育委員, C. D., 僧侶13年
No. 60	17.5	3~31	60	34.00	祈禱師
No. 27	17.7	3~28	39	26.75	C. D.
No. 101	18.2	5~30	53	57.00	村の委員
No. 1	18.1	5~30	55	14.00	元村長
No. 67	18.4	9~28	59	63.00	勤勉
No. 23	20.0	8~30	47	40.00	C. D., 寄進総代
No. 20	22.4	8~30	45	40.00	C. D., 寄進総代
No. 0	22.6	20~31	29	0.00	小売店, 金借し
No. 54	23.2	13~30	33	14.00	小精米所, 金借し
No. 15	23.4	7~31	42	16.00	C. D., モー・ラム・ダンサー
No. 77	23.5	10~31	41	18.00	C. D.
No. 95	24.7	4~30	32	0.00	仕立屋, 金借し
No. 78	24.9	13~31	40	55.00	よき父, 自作農としての成功者
No. 41	25.0	19~31	29	1.00	野菜作りの普及者

表は部落の中でリーダーとおもわれる者32名を選び、互に順位をつけさせて作成した。

※ コミュニティー・ディヴェロップメントの部落委員

(Don Noi) とともに共同で維持・管理されている。本堂はなく、講堂、僧房と庫裡⁶⁾があるのみで、すべて木造建である。町方の寺院に比較するとかなり貧粗である。この寺は部落ができたときに建立されたものであるが、近年講堂が改築されている。改築にさいしては、政府からじゃっかんの補助金があったほか、労力、費用ともに両部落の協力と寄進によっている。昨年の安居期における僧侶の人数は、住職をはじめとする僧侶が9名、見習僧8名、寺子3名であり、安居期が終り、年末におこなわれる僧位の試験がすむ頃には5名の僧侶と2名の見習僧が還俗した。住職は現在25才、隣り部落ドーン・ハン (Don Han) に生れ、16才から18才まで見習僧をつとめ、23才のときに僧侶としての得度式を受けている。その動機は両親の恩に酬いることにあり、かれ自身も勉学にはげみ、高僧になることを望んでいる。他の僧についても同年輩の者が多く、動機も同様であるが、家の仕事が忙しいという理由で、また身を定めねばならぬという理由で還俗を決心している者がある。しかし普通は還俗の時期について語りたがらない。見習僧にかんしては、だいたい両親の言葉にしたがって入門し、また還俗している。

この部落の住民がいかに寺院を中心とする諸活動に熱心であるかはつぎの事実から明白である。以下、講堂の改築工事、食物の献立、年中行事、得度式の習慣、またこれら諸活動の目的について調査した結果を記そう。調査総数は世帯主98名であるが、そのうち調査不能が1名ある。

改築にかんしては98世帯中91世帯がなんらかの形式でこの事業に労力を提供し、寄付金を出



写真1 菩薩の徳を称える行事において、その生涯と修行を説く僧侶と聴きいる村人達

している。調査不能を除く残りの6世帯は改築当時一世帯を構成していなかった。その金額は30パーツから500パーツにわたり、人によりさまざまである。労力提供者は91世帯中84世帯であり、他の7世帯は家族員が少ないか、老人のみの世帯である。労力提供の日数、金額は各世帯によりことなるけれども、あくまで

6) 部落の人人が仏教行事が催されるときに使用するのであって、もちろん僧侶が使うのではない。

7) 約75年ほど前。

8) 得度式を同じ年にタープラでおこなった間柄。

自発的な行為であり、強制的なところはまったくみられない。不足の場合は必要に応じて幾度でも部落の集会を開き、その旨を村人に知らせる。

僧侶の日常の食事は、いうまでもなく村人の献進による。僧侶が托鉢に村を廻るのは安居期中であるが、4 斎日⁹⁾と雨のときには村人が1日2回の食事を寺まで運ぶ。各家では1日の食物を3等分し、 $\frac{1}{3}$ は寺に、 $\frac{1}{3}$ は田畑に出る家族員に、残りの $\frac{1}{3}$ は家にとどまった者に配分するという。家の仕事が忙しい場合は献上食物を他の人にいっつけて徳を分かちあう。安居期間中は98世帯中43世帯が「ほとんど毎日」、53世帯は「時々」寺に詣で僧侶に食物を供する。まったく行かぬと答えた者は1名のみである。安居期が過ぎても「毎日」と答えたものは26世帯、「時々」と答えたもの70世帯、まったく行かぬと答えたもの1世帯がある。また安居期中の4 斎日には老人達が講堂でお籠りをするが、98世帯中29世帯が1夜をあかすと答えている。

僧院生活の経験にかんしては、98世帯主中69名が僧侶としての生活を送っている。経験のないもの23名、非該当(女性)が5名となっている。得度式を受けなかった23名についてその理由をみると、大部分が早く結婚したことをあげ、その他としては、家の仕事が忙しかったこと、家族員を扶養するのに暇がなかったこと、また式をおこなう金が準備できなかったことが原因となっている。さらにこれら23名について、今後僧院生活を送る意志があるかどうかをたずねたところ、「そうしたいものだが、実際問題として不可能であるから、わからぬ」答えている。

子供の僧院経験についてみると、20才以上の息子をもつ34世帯中、27世帯はすべて僧侶の得度式をすませ、6世帯についてはすませた息子とそうでない息子を含んでいる。他方、20才以下の男子をもつ71世帯中70名は僧侶の得度式を挙げると答え、不確かは1名あるにすぎない。寺院を中心とする部落の宗教行事は多い。そのうちトード・ティアンと呼ばれる蠟燭奉納祭にかんして、98世帯中79世帯が毎年、残りの18世帯はときどき参加している。

寺院を中心とするこれらの宗教活動の目的は功德を積むことにある。元小学校教員の説明によると、村人が仏教行事に専念し、徳を積む行為をなす動機は3種にわけられる。第1は富と権威を誇示するために寄進をおこなう場合で、授かる徳は最小である。第2は功德を積み来世よき存在として生れかわるという僧侶の言葉にしたがって寄進をおこなう場合で、第1の場合よりも授かる徳は大きい。第3の動機は涅槃に到達することを目的として寄進をおこなう場合であり、真に仏教を信仰する人人の立場である。徳を積み、生れかわるごとに慈悲深い存在となれば、最後には涅槃に到達するといわれている。村人一般の動機は第1と第2であり、第3に属する者は元教員を除いて他にないと彼自身いう。この部落では第1の範疇はそれほど顕著ではなく、寄進行為は全体として華美なところがなく、質素であり、結局、第2の範疇が主な動機を構成している。98世帯主中96名はつぎの陳述に同意し、反対1名、調査不能1名となっ

9) 上弦と下弦の8日と15日の4回。

ている。「功德を積むのは、苦難からより自由な高い地位を獲得すべきすぐれた能力と資財をもって生れかわるためであり、また同じ苦難を再びくりかえさぬためである。」そしてより高い社会・経済的地位に生れかわることは天国と考えられ、より低い社会・経済的地位や動物に生れかわることは地獄と考えられている。

4 守護霊としての精霊

前項において述べた意味において部落民の仏教にたいする信仰は厚い。他方、守護霊としての精霊信仰は近年ますます不信・弱化の傾向をみせている。このことは村の神や田の神にたいする村人の態度からうかがえる。

(1) 村の守護霊

この地方においては、トン・タキアン（翅犬樹）、トン・ドゥー（印度紫檀）、トン・ポー（菩提樹）、トン・トライ（榕樹）、トン・パუნッ（樹蘭）などのごとき大木には精霊が宿り、附近の土地を支配していると考えられている。調査部落においても、今から20年位前までは村の東にある自然の塚ないし大木に部落の土地を守る精霊が住むとかがえ、それを畏れ、これを祭っていた。部落の歴史は75年前にさかのぼるが、開拓後数年もするうちに村の戸数は40余りに達したので村内に寺を建立した。それと同じ頃、村人達は自然の塚の上にも小さな祠を設け、これをトゥーカタプーもしくはトゥープターと称して鶏や亀を供物として毎年捧げた。そして部落にはお守役として祈禱師モー・ピー1人をおいた。しかし数年して近くにある大木トン・カーンッに祠を移した。それとともに村内の中ほどにブー・バーン（村の中心の意）といって木柱を建てた。かれらは村の繁栄を願い、悪霊からの保護を願って新しく設けたのである。これは精霊とは異なり、仏教的・呪術的性格をもつ聖地として崇められている。そしてブー・バーンに祈るに先だって、トゥーカタプーに供物を捧げるのが常であった。しかし20年ほど前、この部落に疫病が続出したので、トゥーカタプーの効力が疑われ、祠から精霊を追放してしまった。¹⁰⁾したがって今日ではブー・バーンしか残っていない。ブー・バーンの本質は後述するクン・プラ・タムを指すが、人によっては部落の守護霊と考えられている。

(2) 田の神と稲魂

調査部落ドン・デーンッ (Don Daeng) における稲米儀礼はほとんど消滅してしまっているので、近くの村の様子について記す。儀礼は1年を通じて6回おこなわれる。すなわち、耕作をはじめる前におこなうレーグ・ナークワン、田植前におこなうパッグ・ヘーグ、旧9月15

10) 蟻の巣。

11) これにはクン・プラ・タムを信じる部落の祈禱師2名が主役となった。

12) コーンケーン町の北にある村サムラン。

日から旧10月15日の間におこなうリアン¹³⁾・ヘーグ、刈入れのときにおこなうブーグ・ナー、稲を穀倉に入れるとき、および旧3月におこなうスーグ・クワン・カーウの5種類である。

レーグ・ナー・クワンは春耕祭ともいうべきものであり、旧6月に稲魂を田に迎える儀礼である。日については祈禱師に相談し、曜日を定めるが、両親の死亡した日は避けるという。場所は畦の交差点などに設けられた直径約70センチほどの窪地であって、ター・ヘーグとよばれ¹³⁾田の神が住まうところとされている。当日は花1対、ローソク2本、糯米を蒸したもの4握、煙草4本、檳榔樹4包、甘い物4皿を家で準備し、田の神に捧げる。その前で「稲が健かに成長するように、10月には収穫ができるように、牛や水牛が病気にならないように、そして死なないように見守ってください」と祈り、田を耕しはじめる。その後は水しだいで苗床を作り、粃をまく。

パッグ・レーグとは田植祭を意味する。当日は朝9時頃田に出て、一番よく成長した苗を取り、それをター・ヘーグの中心に1カ所、その周囲の6ヶ所に植えかえる。特に供物はない。

リヤン¹³⁾・ヘーグとは穂が実ることを願って田の神に奢ることを意味する。これは旧9月15日から10月15日の間の吉日を選んでおこなう。レーグ・ナー・クワンの場合と同じものを準備し、さらに鶏と塩漬けの魚を供える。そして「今日は吉日、田には稲が健かに成長している。牛や水牛を疫病と死から守ってくれるように、御馳走を食べてください、田の神よ、土地の神」と祈る。

ブーグ・ナーとは田開きのことであり、取り入れが終ったときにおこなう。田全部の刈り入れがすみ稲束を出小屋近くに設けた脱穀場に運ぶと、ター・ヘーグの稲を刈り取る。その粃をバナナの葉で包み、田の神に収穫が終ったことを告げる。その包と甘い物を竹で編んだ飯籠に入れ、外側を穂で包み、長い竹竿の先に結びつけて脱穀場のそばに立てて刈り入れ終了のしるしとする。

スーグ・クワン・カーウは稲魂の招魂儀礼であり、竹竿に吊した飯籠を米倉に運ぶときに倉の中でおこなう。吉日を選び、祈禱師を招いて祈ってもらう、バイ・シー¹⁵⁾を準備し、テーフ¹⁶⁾ダーを呼び招魂祭をおこなう。祈禱の内容はだいたいつぎのごとくである。招魂祭は旧3月にもおこなわれ、そのときまでは倉の米は使うべきでないという。

「旧の5月が過ぎるとすぐ6日がおとずれる。雨が降り、雷が鳴り、稲妻が走る。農夫は山刀を磨ぎ、斧を研ぐ。パニアン¹³⁾ガイの木を探しに森に出かける。森は家から遠い。パニアン¹³⁾ガイの葉を落し、枝を払う。それを家に持ち帰り、床下においておく。大工が来て木を削

13) サムラーンの全農家の田にあるわけではなく、田を分割する場合、娘夫婦のだれか一組が親のター・ヘーグを受け継ぐことになる。その娘夫婦は親と最後まで同居した者である。

14) 人間にもクワンがあるとされ、後述することく招魂儀礼がおこなわれる。

15) パー・クワンともよばれるが、その内容については招魂儀礼を参照。

16) 須弥山、鋭回山の上空に住むと考えられている天人。

り、犁を型どる。田畑にそれをもって行く。それから軛を作って水牛の首に綱でくくりつける。水牛が犁を引く。土は固くて木の幹のようだ。鋤きならして幾日かおいておく。

苗床を作り、土の上に粃種を蒔く。神様は粃種が発芽して苗が成長する。曆によれば、旧10月が過ぎて、待遠しい月が訪れる。田の稲は美しい。若干の穂は乾いて落ちる。風が稲の葉をなでる。鳥に気をつけよう。ノッカチップやノッカチャーブよ、穂をつつきに来るな。それから幾日もすると稲は十分に成長して実る。皆が助け合って刈り取る。3日ほどそのままにして、束ねて乾いたところに積み重ねる。ある人は脱穀場をきれいにし、叩き棒をもって来て穂を打ち落す。ある人は草帚をもってきて粃粒を掻き集める。

シー・シー今日は吉日、幸運の日。なにごとともがよい日だ。バイ・シィも飾りつけられ、御神酒も準備できている。お菓子もたくさんある。バナナと葉もある。茗の若葉、ゆで卵、バナナ入りの餅菓子、砂糖黍、トゥリカー、鶏も弁当箱に入れてある。敷物もしいてあるし、祝福の糸、瓢箪4つも一緒においてある。幟は4本田の4隅にたててある。みなそろって祈禱師を招き、バイ・シィーのそばに坐ってもらう。

今日は吉日、すばらしい日。われわれは皆で儀礼の準備をして、稲を倉に運ぶ。穂は十分に実っている。晩稲は田植がおそい。カーウ・マッグコーグ¹⁷⁾の穂は上をむく。カーウ・マッグクウァーは盆地の端の高いところに植える。カーウ・プラードの穂は粃粒がくっつきあっている。カーウ・マッグポーの米粒はきれいだ。カーウ・チチャーンッも大きくきれいだ。カーウ・マッグデンッの米粒は長くてきれいだ。カーウ・パーチアーウは米粒が長く、うすい。まず早稲を刈り取る。カーウ・イダムノーイは香がよい。カーウ・ガーブヤーンッもすこし香がする。カーウ・チダムは粃の色が黒い。カーウ・マッグヒンッはガサガサ音がする。カーウ・ロードグイアンの米粒はかたい。みなよい稲ばかりだから粃種としてえらんでおく。

シーティサモー。稲魂よ来い。ラーンチャーンッの国におちるかもしれぬカーウ・ピアンッの稲魂よ、今日はこちらに来い。ホンッサーウァディーに落ちるかもしれぬカーウ・ハーンッの稲魂よ、今日はこちらに来い。ホーラートの町に落ちるかもしれぬカーウ・ナーの稲魂よ、今日はこちらに来い。天秤棒で運ぶうちにこぼれた稲も今日はこちらに来い。鳥に持ち去られた稲も今日はこちらに来い。ノッグ・ゲークの鳴声は大きく、声もよい。穂をつついて口にくわえ、遠くの木の上に持ち去る。ノッグ・カウトーンッはくわえて空遠く飛び去る。ノッグ・カチャーブの頭は黄色い。ノッグ・チップピアンッは身体が白く、口にくわえたまま垣根や田畑の隅に運び去る。今日はどの稲魂もこちらに来い。みんな、稲魂よ、こちらに来い。草むらの稲魂よこちらに来い。竹藪の稲魂よこちらに来い。あらゆるところから来て集まれ。おたがいに誘いあって米倉に来い。のこらずにみな集まれ。稲魂よ全部あつまってこい。雨が地

17) 以下、ここにあらわれる稲の名はすべて糯稻であり、粳稻はみあたらない。

を潤すごとく、10年食べても余るほど、10年出してもへらぬほど十分に。米を搗いてもくだけるな。唐臼で踏んでも散らばるな。竹の盆で米粒をよりわけるとき、あやまって粃を籠の中へ入れないように。たとえ娘が杵をとりかえても驚くな。大蛇がとぐろを巻くように、散らばらずにかたまれ。情婦がからむごとく一所にくっついておれ。遠くへ行くな。プラチャウテミー¹⁸⁾、慈悲を与えたまえ。」

(3) 守護霊にたいする態度

以上、田の神にかんする記述は近村サムラーンについて調べたものである。調査部落ドーン・デーンテにおいては田の神にかんする儀礼はみられず、また信ずる者もきわめてまれである。世帯主98名中、93名はまったく関心を持たなかったり、また信じることはよくないと考えたり、無意味だと思っている。2名は「わからぬ」と答え、信じると答えたものは2名にすぎない。信じると答えた者のうち1名は長く病床にある者、他の1名は身近な親族のなかに昔田の神の禍を受けた経験をもつ者である。信じないと答えた者があげた理由は断片的であるが、つぎのごとくである。「水がなければ頼むけれど、ここは水が多すぎて」洪水ばかりであって田の神の効果はない。「祭ってみても効果はなく、水牛は稲を食う」し「豊作をもたらすなにもものをももたらしてくれない。」したがって祭ってみても、鶏がいるだけであり、不必要なことをするのは煩しい。祭らなければ水牛が死んだり、子供が病気になるというが、それならばなんら益をもたらさず、「害ばかりを与える田の神などは信じない方がよい」し、むしろ信じることは「危険である。」しかも「田の神などは見た経験もなく、」存在するものではないから、祭ることはまったく「無意味である。」田の神のごときものは「一世代前のものであり、」今日ではもはや「時代おくれ」となっている。さらに「仏教は田の神のごときものが真でないことを教えている」し、また「クン・プラ・タムの効力は田の神にまさる。」田の神にたいするこのような態度は、すでに述べた村の神にたいする態度と同様であり、一般に精霊を守護霊として崇める風習は儀礼の点からいっても信仰の点からいっても消滅しているといえよう。

5 呪文・護符の効力

(1) クン・プラ・タム

村の守護霊を述べたところで、ブー・バーン（村の中心の意）にふれた。これは精霊でもなく、神でもなく、クン・プラ・タムを祭る聖地とされている。そこに木柱が建てられ、下に魔除けの呪文・護符が埋められている。これは前述のモー・タム祈禱師2名（村の古老格）が書きつくったものであり、年4回祭るという。すなわち旧6月田植の前、旧9月、旧12月の収穫

18) 仏陀の前身。

期、と旧3月である¹⁹⁾。しかし実際には年1回、旧12月か3月におこなうのみである。クン・プラ・タムは村の中心ばかりでなく、各家にも祭られている。棚には普通カン・バグベンと呼ばれる、紙製の飾物が置かれ、その他にローソクと花などをのせた盆がある。そして悪霊が来ると飾物がゆれると考えられている。村のクン・プラ・タムはいうまでもなく、家のクン・プラ・タムも大部分は部落のモー・タム祈禱師が主役となって祭る。モー・タム祈禱師は4斎日ごとに自分の家の飾物を作りかえ、棚に供えて、祈禱する。他方、各家では自己の祈禱師のところへ、ローソクと花を持って行くこともある。

クン・プラ・タムのタムは法、プラは尊称、クンは効力を意味する。元小学校教員の話によるとタムとは仏陀の言葉であるが、それが誤って使用されているのがこの部落のクン・プラ・タムであり、その意味においてクン・プラ・タム信仰はまがいの法であって、仏教からいえば邪教であるといわれる。仏陀の言葉であることには間違いはないが、モー・タム祈禱師や部落民一般が用いているものは、全体の文脈からごく一部を切りはなし、人間に危害を与えるもの、ときには慈悲をあたえるものの分類にしたがって仏陀の言葉を分解、整理しなおした呪文ないし護符にすぎない。そしてこの呪文・護符は長寿、健康、安寧、威力の増加に役立つと信じられている。このように解釈されているクン・プラ・タムの一例をあげるならば、いかなる場合でも危険から自己を守るためには「ナ・モ・ブ・タ・ヤ」をくりかえし唱える。また鉄砲、刃物、蛇、動物からの危害をさけるためには「プラプットーカンッナンッ、プラアラハンコンッヌア、プラサンコーコンットウドゥグ、ユートゥアヤマアウ、ナ・モ・ブ・タ・ヤ」を7回くりかえす。さらに他の人から親切と慈悲の心をひきだすためには「アマヌットサン、チッタンッパンタンッ、アマパソーピティ」をくりかえす。これらの呪文はパーリ語であり、個々の意味は唱える者自身わからない。呪文のうちあるものは広く村人に知られているが、元来は人に教えてはならぬものであって秘密である。祈禱師はこのような類の呪文・護符をそれぞれ先生について勉強し無数に知っている。

前述のごとく各家の棚にはクン・プラ・タムが祭られている。世帯調査によると98世帯中83は棚をもち、棚のない世帯は14軒である。棚をもつ83軒中同時に仏像をも安置しているのは23軒にすぎず、残りの60軒は棚が設けられているのみである。クン・プラ・タムは呪文・護符であるとしても、それが仏陀の言葉として解釈されているかぎり、仏像を安置し、寺院中心の仏教と相反するものではない。また僧侶が、クン・プラ・タムを邪教として退けることもないから、両者は一つのものとして村人の目にうつっている。部落の人人はクン・プラ・タム信仰をも含めてよき仏教徒だと思いこんでいる。仏像を売りにきた商人が、棚に仏像が安置されてな

19) 田の神祭の時期とだいたい同じであって注意をひくが、以前の状態は今わからない。

20) 妻と子供のクン・プラ・タムは同じであるが、夫は別であり、生家のクン・プラ・タムを崇めるといふことがしばしばかれる。

いのをみて、非仏教徒だと非難したとき、村人の怒をかったということはこのことを物語るエピソードといえよう。またクン・プラ・タム信仰は邪教だと決めつける元小学校教員が祈禱師から反目視されている理由もここにある。

(2) 家と村の除祓・増福儀礼

部落においておこなわれる儀礼のうち最も重要なものの一つはタムブン・バーン（村の除祓・増福儀礼）とタムブン・ヒアンケ（家の除祓・増福儀礼）である。タムブン・バーンはブー・バーン（部落の中心）の側に建てられている部落の集合所で毎年おこなわれる。タムブン・ヒアンケは必ずしもすべての家がするわけではなく、その年のうちに不幸があったような場合におこなわれる。世帯調査によると98世帯中17軒が今年この儀礼を営んでいる。時期は収穫が終った旧1月頃から2月頃にかけてである。タムブン・バーンは旧3月におこなわれた。

この除祓・増福儀礼はタムブンといわれるごとく、僧侶を招いて読経をしてもらい、食事を献進することによって功德を積むことを第1義としている。そのかぎりにおいて仏教的儀礼である。内容的には悪霊を祓い福をもたらすという呪術的要素がみられる。また儀礼において主役を演じるのは僧侶であるけれども、古老格の祈禱師2名もタムブン・バーンの準備を監督するとともに、クン・プラ・タムの飾物を取りかえて祈る。またタムブン・ヒアンケの場合においては、これをおこなう家のクン・プラ・タムに花とローソクが供えられる。さらにタムブン・バーンの場合には悪霊を鎮める供物が、集会所の周囲4カ所に打ちこまれた杭にくくりつけられるし、タムブン・ヒアンケの場合には、つぎにのべるごとき特別の除祓儀礼を祈禱師に頼む。このように家と村の除祓・増福儀礼には種類の要素が混在しているが、その目的とするとところは村なり家の悪運を除き安寧と幸福をもたらすことにある。なおいずれの儀礼においても、かかすことのできぬ準備品としてクルパン²¹⁾と称するものがあり、かつては除祓・増福儀礼が農耕儀礼とも関連していただろうことを思わせる。

タムブン・ヒアンケの次第を示すと、当家はまず祈禱師を訪れてよき日を占ってもらい、その日に僧侶を招くべく頼みにいく。当日は親戚、近隣のものが集まり、僧侶に捧げる食物を準備する。その日は夕方7時頃から約1時間読経をして祝福してもらう。近い親戚、親しい友、村長や長老は式をおこなう部屋に坐し、他のものは広間に坐す。先導者にしたがってすべての人が礼拝準備をし、五戒懇請、念仏懇請を唱え、天人を招請する。ついで僧が誓の言葉をのべ、三宝帰依を唱えた後、祝福の念仏²²⁾にはいる。それと同時にロッドナムモン²²⁾といって聖水を作り翌日までおいておく。念仏を唱えながら、先導僧が托鉢に用意された水の上にローソクをたれて聖水をつくる。部屋に準備されたものとしてはクン・プラ・タムに捧げる花とローソ

21) 飯籠の中に、糯米を蒸して握ったもの1,000個、その他タバコや檳榔子などをそれぞれ1,000個づつくり入れたもの。むかし部落の祈禱師がつくり、今は寺に保存してある。

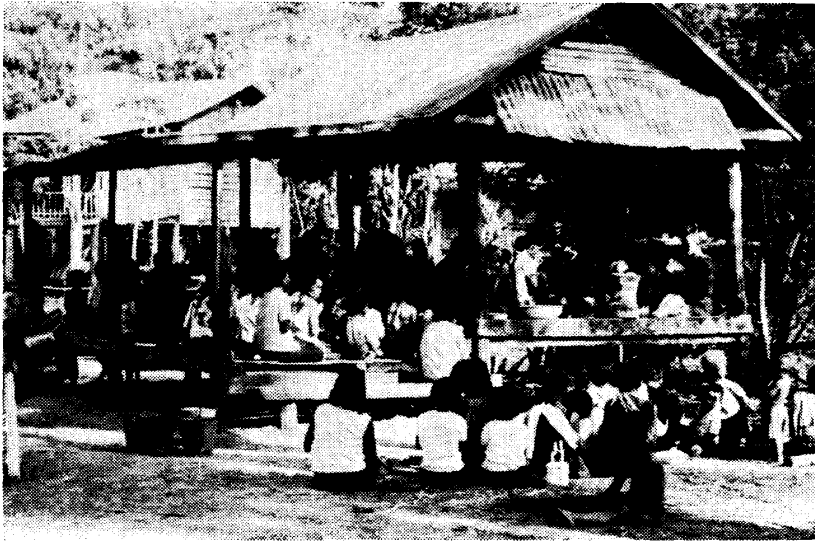


写真2 部落の集会所においておこなわれる村の除穢・増福儀礼
；御斎後僧侶の祝福をうける村人達

ク、仏陀の像とクルパンがある。像からはじめてそれぞれを木綿糸で結びつけ、部屋をひとまわりして、その終りの部分を招かれた僧が手にもつ。念仏が終ると僧侶は寺に帰り、他の参列者は食事の接待を受ける。

翌朝は朝7時前に僧侶を招き、食事を献上する。いつの場合においてもこの行為は功德をつむ

一つの方法であり、家の除穢・増福儀礼においても、この行為は重要な部分を構成している。終ると僧侶は祝福の言葉を述べる。「一杯になった水淵が器を完全にみたすごとく、この世でなされた布施の行為はこの世を去った人人を潤す。あなたがたが心に想い、心に決めた結果が

- 22) 礼拝準備：「さあ心の準備をしよう。跪づいて身をととのえよう、さあみんな、手を合わせて仏を念じながら平伏そう。仏法に心をむけて礼拝しよう。僧侶を尊敬して、もう一度平伏そう。決意をかたくしよう。」五戒懇請：「仏儀を営まれるお方よ。わたくしたちはすべて三宝とともに五戒を懇請しております。(以下同様なことを2回繰返す)」念仏懇請：「不幸・禍から身を守るために、富み栄えんがために、そしてあらゆる苦しみを除いてもらうために、吉祥をもたらす念仏をして下さるようあなたがたにお願いしております。(以下同じことを2回繰返す)」天人招請：「仏儀を営まれる多くの方方よ。慈悲深きお方よ。教典の威力を乞い願いますゆえ、慈悲をお授け下さい。そして心を乱さず念仏を唱えて下さい。鉄回山の周囲の天人達よ。この場所に集まって下さい。そして涅槃をのぞみ天国を授ける正法を聴いて下さい。天国に住まう天人たちよ、どうか来て下さい。欲界にしようと色界にしよう。天人の住むところは山頂に立つ七層の楼閣。たとえ山や島に、また空中に、国境や村にいても、また草木や密林、屋敷内や畑にいても来て下さい。そして薬叉や乾闥婆、水中に住む龍神よ、みな共にこの場にお集り下さい。どの言葉もすべて卓越した人の言葉です。あなたがた賢者よ、どうか私達の言葉を聞いて下さい。」誓の言葉：「仏陀。一切の煩惱をたち、悟をひらいた方を崇拜しよう。(以下2回繰返す)」三宝皈依：「仏陀は智慧を持ち、穢を浄める力をもっておられる。すなわち無智から脱し、正智を得られた方である。善道を歩み、煩惱から解脱し、悪魔の罟を解くことができる方である。そして衆生を安寧の道に導く。わたくしたちは仏陀に皈依します。世界の庇護者であり、世界を導く方である。その仏陀の威光をもって、あなたがたが勝利を獲得し、一切の危険から免れるように祈ります。仏法は釈尊の勝利の旗であって、世界に無垢の道を示し、生命あるものを苦難から救い、善人を庇護する。行いがよければ悦びが与えられ、平安がもたらされる。わたくしたちは、この仏法、すなわち無智を破り、平安をもたらすこの仏法に皈依します。仏法の威光をもって、あなたがたが勝利を獲得し、一切の危険から免れるように祈ります。僧侶は仏法をひろめ、修多羅を実践する方であり、世界の数数の苦難、下浄に打ち勝ち、自ら平安たりうるとともに、他の人人をも平安に導きうる人である。釈尊の説く仏法を遵奉するならば、その人は道に従うといいうる。わたくしは仏陀の教えを知り、戒律と見識を有する僧侶に皈依します。僧侶の威光によって、あなたがたが勝利を獲得し、一切の危険から免れるよう祈ります。」

ありますように。そしてそれが速かに成就しますように。あなたがたの考えていることが満月のごとく、輝く宝石のごとく満ちたりるまで。」「あらゆる危険から免れ、そしてあらゆる病から免れ、そしてあらゆる煩わしさから免れたなら、そしてあらゆる罪業、輪廻から超越したならば、あなたがたは煩悶なき人となる

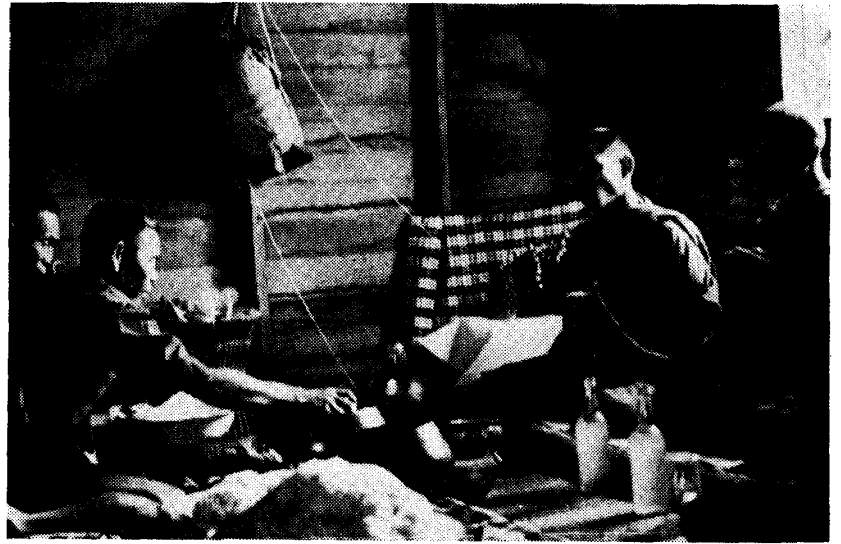


写真3 家の除祓増福儀礼においてお斎を捧げる主人；部落の寺から借りる仏像とクルパン

でしょう。」「あらゆる呪わしいことが消えうせるように。あらゆる病がなくなるように。あなたがたに危険をあたえるものがないように。そしていつまでも年若く平穩無事でありますように。4つの徳目、すなわち長寿、健康、平安、威力は崇拜を常とし、不変の賢者を崇う人たちを満たし、榮えせしめる。」

その後説教があり、ついで聖水によるお祓をおこなう。そして念仏を唱えて終る。出席者一同も朝食の接待を受ける。

さらに祈禱師による特別の除祓儀礼に移るが、その内容は生起した禍の種類によってことなる。つぎに、これについてのべるが、それはタムブン・ヒアンツェのときにのみおこなわれるものでないことはいうまでもない。

6 除 祓 儀 礼

部落の人人が精霊を守護霊として崇めなくなったことはすでに述べたごとくである。しかし悪霊の禍についての迷信は深く村人の心に根ざしている。98世帯主中55名は悪霊の仕業を強く信じており、35名は多少なりとも信じ、まったく信じぬと答えたものは7名にすぎない。残りの1名は調査不能である。また悪霊に憑かれた経験のあるもの²³⁾の24名、なきもの73名、調査不能1名となっている。

人畜に害をおよぼす霊はさまざまであるが、部落の祈禱師によると以下のごときものがある。すなわち事故で死亡した人の悪霊ピーー・ターイホーンツェ、コレラで死亡した人の悪霊ピ

23) その他、世帯主自身は経験がなくとも、妻や子が悪霊の禍を蒙った例は多い。

イー・ハー，森の悪霊ピー・パー，プラ・タムに憑かれて死んだ霊ピー・タールアンク，ラオ族や山間民族が畏れるピー・ポーブ，祖霊ピー・スア，風に運ばれる悪霊ピー・テーション，天高く存するといわれるピー・ファー，町で死んだ人の霊ピー・ムアンク，子供の死霊ピー・ディブ，死霊ピー・ローグである。

部落の祈禱師がおこなう除祓儀礼の主なもの、森の悪霊により病気になった人を快復するためにおこなうテーンク・ゲー，白昼悪霊をみた人のためにおこなうシア・クロ，除祓を幾度おこなっても不幸が続く人のためにおこなわれるサダ・クロ，墓地その他不吉な場所を夢見たときにおこなうスーグ・クワン・ゲーウ，幸運をもたらすためにおこなうブーチャー・チョーグ，悪霊にとり憑かれた人のためにおこなうライ・ピーなどがある。

除祓儀礼のうち、テーン・ゲーの例をあげるならば以下のごとくである。まずバナナの葉柄を使って、あさい箱をつくり、9つに仕切る。各仕切りは左上から黒鼠，黄龍，黒虎，白ライオン，赤猫，ウパクッド，黄牛，白象に相当し，中央がテーワダーに相当するといわれる。そして仕切られた空間の中に米，タバコ，檳榔子，バナナ，砂糖黍などを入れる。その他，御神酒とローソクを盆にのせ，その盆から木綿糸をたれ，その先をバナナで作った箱の縁に立てた8本の棒に順次くくりつける。さらに水を入れた器と米粒を準備する。

祈禱師はまず先生に敬意を表し，ついで病人の守護神となるテーワダーを呼ぶ。病人の生年月日と状態を描写して，その原因となっている悪霊を追い払うことを援助してくれるようテーワダーに願う。そして悪霊を除去する呪文を唱える。その間，用意された米粒を各仕切の中に撒くとともに，水を入れた器の中にローソクをたれ聖水をつくる。それを病人の身体に振り掛け，家のほり，さらに出口に撒く。そして病人の腕首には木綿糸を巻きつける。最後に8本の棒にかけた木綿糸は順次ローソクの火で焼き切ってしまう。このバナナの葉柄でつくった箱は

家の外に持ち出して放棄する。この箱はテーワダーに捧げられるといわれるが，明確ではない。

ただここで注目すべきは，祈禱師が除祓儀礼をおこなう場合，またつぎにのべる招魂儀礼をおこなう場合においても，悪霊を祓い魂を呼び戻すためにはつねにテーワダーの援助を求めていること

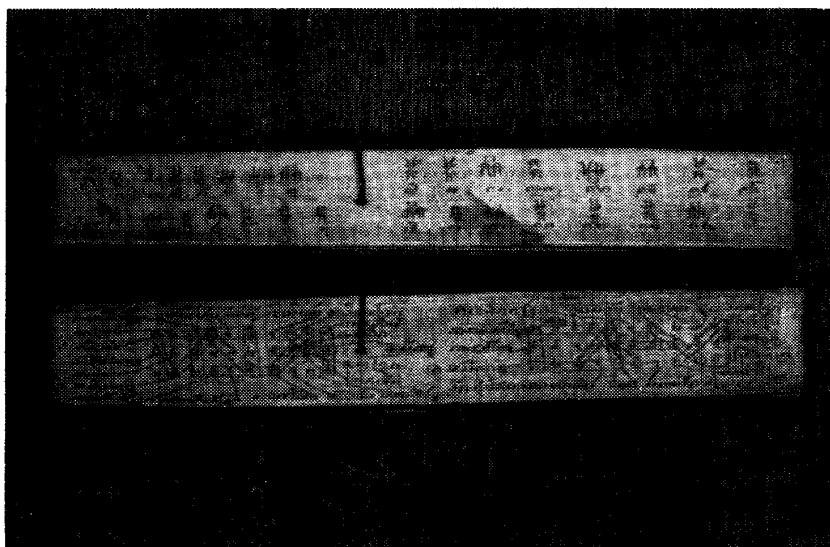


写真4 祈禱師が所持する占の表と説明

であろう。仏教儀礼においてもかならずテーワダーと呼ばれるが、これはともに仏陀の言葉を聞かせるためである。しかし村人の一般的な考え方にしたと、テーワダーは信頼しうる守護神である。世帯主98名中87名は「不幸や禍の原因は悪霊の仕業かもしれぬし、前世における悪徳行為の結果であるかもしれぬが、いずれにせよ精霊よりもテーワダーを信じる」立場にある。「なぜならばテーワダーは精霊よりも力強く、悪霊を除去するから」にはかならない。他の3名は上記の意見に「そうかもしれない」と答え、5名は反対している。反対の理由はテーワダーそのものに向けられるというよりも、むしろ不幸と禍の原因についてであり、この人たちは、不幸は前世の悪徳の結果であると割り切っている。残り1名は調査不能である。

7 招魂儀礼

部落の祈禱師のもう一つの役割はスーグ・クワンと称される招魂儀礼をおこなうことである。クワン信仰はこの地方一帯にひろくみられるところであるが、クワンとは生命の本質であり、普通は頭に宿るものとされ、²⁴⁾その人の安寧と幸福を左右する源と考えられている。もしクワンが頭から離れてさ迷ったり、悪霊によって追い出されたりすると、その人は夢をみたり、病気になったり、また死んだりする。したがってクワンが身体から離れないように腕首に白い木綿糸を巻きつけたり、声を出してクワンを呼び戻したりする。これが招魂儀礼の主な目的である。ただその場合、食物を用意してクワンをもてなすほか、テーワダーにも供物を捧げて援助を願う。これらの供物はパー・クワンと呼ばれ、テーワダーのためには、タバコ2本と檳榔子をバナナの葉に包み、ローソク2本と共に御神酒を入れた瓶の上に立て、円形の器の中央に置く。クワンをもてなすためには、バナナ4本、卵4個、糯米を蒸して握ったもの4個を瓶のまわり4カ所に分けておく。器内にはバナナの葉で編んだ敷物4枚を用意する。クワンが永久に身体から離れた状態が死であるが、死後クワンは生前に積んだ功德の量に応じて、よい部分は天国にいき、わるい部分は地獄におちる。すなわち、この世に生れかわってよりよい生活を送ったり、天上に住むテーワダーとなることもあれば、この世に生れかわってより悪い生活をおくったり、あるいは動物に生れかわったりする。また中空にさ迷うものは死霊ピー・ポーブとして、人人に危害を与える。死後、法要をおこない功德を積む習わしはクワンがより高い道德的存在として生れかわることを願ってであろう。

以下、種類の招魂儀礼にさいして唱えられる祈禱文の内容を記しておこう。

(1) 捲糸儀礼

シー・シー、チアヤマンッカラッ。今日は吉日、よいことに満ち溢れた日。幸運者の日であり、あらゆる幸運がここにある。だから今日お前の腕首に糸を巻きつけよう。他の村や

24) 身体には32のクワンが宿り、身体の機能、精神活動を司るともいわれる。

田畑に出かけて、そこにとどまっている主のクワンよ。今日は戻っておくれ。ラーンナームーゲーウにとどまる主のクワンよ、今日は戻っておくれ。他の地方にさ迷う主のクワンよ、今日は戻っておくれ。仕事に出かけた主のクワンよ、今日は戻っておくれ。遠くに出かけた主のクワンよ、今日は戻っておくれ。地位ある人人と会っている主のクワンよ、今日は戻っておくれ。寺で功德を積んでいるクワンよ、今日は戻っておくれ。主のクワンのすべてよ、お前の身体に戻れ。眠りこけているときも、目覚めているときも、主は迎え入れるであろう。主のクワンよ、密林や森林にいかないでおくれ。森林に出かけたり、大蛇とともに墓地に眠る主のクワンよ、今日のよき日に戻っておくれ。水龍とともに住む主のクワンよ、今日は戻っておくれ。植物や魚を採集に出かけた主のクワンよ、今日は戻っておくれ。田畑に出て、飯を食っている主のクワンよ、今日は戻っておくれ。

(2) 子供のためのスーグ・クワン

シー・シー。お前が母親の胎内に宿ってから今日は9カ月目だ。母親が野良から帰ってきて痛みを訴える。兄弟姉妹が見舞にくる。お前の伯父と母の父が見にやってくる。母親は臥せて目を覚したとき、死ぬのではないかと思う。もし赤子が俯せだったら男の子であり、仰むけだったら女の子だ。

母親の右手は胎盤をもち、左手は臍の緒を切るべくもつ。それから母はお前を選別用の盆の上にのせてピー・プラーイ（魔法使が祭る鬼神）、ピー・パウ（山間民族が畏れる守護霊）とピー・ノッグカウメーウ（梟の霊）に連れていき、出産を告げる。母親はその前で、もしこの子があなたのものなら来て連れて行け、もしそうでなければ、この子は私のものであるという。そして母親は子を揺籠にのせてゆする。それから母親は火を焚いて暖をとる。母親は口がやけただれるほど熱い湯を飲まねばならない。炎があがると困らせられる。子供が退屈しないように揺籠をゆする。

ついで母親は可愛いお前に名前をつける。お前は美しい、黄色の皮膚をしている。お前の顔は白い。女の子がお前を取り合うだろう。主のクワンよ、今日は来ておくれ。森に出かけたクワンよ、来ておくれ。主のクワンが家にとどまることを願う。床は木でできており、屋根はヤー・カーの草で葺かれている。クワンよ、恐れることはない。上の頭にとどまれ。身体のクワンよ、来て身体にとどまれ。肩のクワンよ、肩にとどまれ。鼻のクワンよ、来て鼻にとどまれ。頬のクワンよ、来て頬にとどまれ。首のクワンよ、来て首にとどまれ、口のクワンよ、来て口にとどまれ。目のクワンよ、来て目にとどまれ。月夜に機を織る女のクワンよ、来ておくれ。そして遊びに出かける男のクワンよ、来ておくれ。そして蟻の塚にいる主のクワンよ、来ておくれ。野良に出た主のクワンよ、来ておくれ。悪霊の間をさ迷う主のクワンよ、来ておくれ。川にいる主のクワンよ、来ておくれ。森のはずれにいる主のクワンよ、来ておくれ。クワンよ、クワン。チャヤトウ、パウァンッ、チャヤマンッカラ。私は主のクワンがここに来てくれ

るようにテーワダーに頼んでいる。ヤー・カーの草にとどまる主のクワンよ、今日は来ておくれ。猿の住む森にとどまる主のクワンよ、来ておくれ。ナーグッ・ガームの腹にいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。ナーグッ・ハームの芋畑にいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。ナーグッ・ハイのクرائم（染物に使う木）畑にいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。ナーグッ・ノーンの肩にとどまる主のクワンよ、今日は来ておくれ。土地の神の祠にいる主のクワンよ、来ておくれ。4つ頭の龍や人魚とともにいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。猿と話している主のクワンよ、今日は来ておくれ。ナーグッ・ポー、ナーグッ・パウの家にとどまる主のクワンよ、今日は来ておくれ。谷間や墓地にいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。象の牙にいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。遠くにさ迷う主のクワンよ、今日は来ておくれ。寺の土地にいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。他の遠いところに行っている主のクワンよ、今日は来ておくれ。タイにいるクワンよ、そして他の国にいる主のクワンよ、今日は来ておくれ。あらゆるクワン、息子と子供、稲のクワン、妻の子供のクワンよ、今日は来ておくれ。ナーグッ・シーとナーグッ・ナードのクワン、地下に住むナーグッ・トーラニーのクワンよ、来ておくれ。3のクワン、9のクワンよ、来ておくれ。どうかきておくれ。チャヤトゥッ、パウアンッ、チャヤマンッカラ、ニパーン、パッチャヨーホー。

(3) 病人のためのスーグ・クワン



写真5 事故にあったバス運転手（前列左から3人目）のクワンを呼ぶ祈禱師（前列左から2人目）；中央はパー・クワン

シー・シー、サワディー。今日は吉日、幸運の日。病めるクワンを強化しよう。男であっても、女であっても、大人でも子供でもかまわない。胃病であっても、頭痛であっても、風邪であっても、病めるクワンを強化しよう。胃病、風邪、咳、あらゆる病気がお前を困らせる。もしお前がいずれかの病気で困って

いるのなら、今日は儀礼をおこなうのによい日である。

クワンよ来ておくれ。今お前が病気で悩んでいるのなら、去ってもらうように頼もう。浄居天のような永遠の長寿を祝福しよう。そして涅槃に到達するほどの長寿を祝福しよう。バラモンのごとく 1,000 年以上の生命を祝福しよう。

私の声はよい。主のクワンよ遠くへ行かないでおくれ。クワンよ、森に出かけてとどまらないで。夜おそく家を離れないで。月の光が明るくとも、稲妻と雨がはげしいときも、身体を離れて遠くへ行かないで。もし寒さがひどくても、よく聞いて。辛抱して、怒らないで。お前の身体が快復し、高齢に達し、死ぬまで、忍耐強く辛抱して。おくれ。

(4) 結婚式のスーグ・クワン

シー・シー・シッティプラボン。お前が成長して若い娘となるとき、青年と年寄がお前を賞でにくる。お前の両親と祖父母が、お前を大切に扱うだろう。お前は適令期をむかえる。お前は決して離婚しないだろう。男の親達が、お前がかれらの息子に適していると聞きおよび、結婚を申し込んでくる。

結婚式の日が近づくと、パー・クワンが用意される。占師によると、その日は吉日である。お前は泣き悲しむ必要はない。私があらゆる敵を克服するべく祝福しよう。お前が功德を積んで悪霊に打ち勝つように祝福しよう。占師によると今日は吉日である。私はお前達2人のためにパー・クワンを準備する。米、魚、卵、甘い物などいろいろあり、薬もある。パー・クワンの用意がととのうと、花で香りもよくなる。

われわれはお前達2人を迎え入れるためにいろいろと準備をしている。年寄と両親、美しい娘たちも喜んでやってくる。かれらはお前のパー・クワンをもちあげて左右に振る。年寄は上座に坐る。私は遠くに出かけた主のクワンがお前の身体にとどまるようにクワンを呼ぶ。私は主のクワンを呼び、愛する人の側にとどまるようにしよう。クワンよ、クワン。主のクワンは花とともに来る。お前の髪の毛は美しい。今日は吉日。お前は夫の側にとどまらねばならない。お前達2人は相ふさわしい。私はお前達2人が年をとるまで長く生きるように祝福しよう。私はお前達が多くの子供と召使をもつように、財産をきずくことができるように祝福しよう。私はお前達がより大きな威力をもつように祝福する。クワンよ、クワン。

夕暮になると、主のクワンがお前とともにとどまるように。お前の母が来るべき人を待っている。私たちはいろいろと衣類をそろえて用意している。私は親愛なクワンがお前とともにとどまるために呼んでいる。もし主のクワンが遠くに離れているのなら、今日来ておくれ。もしお前のクワンが昔の恋人と一緒にいるのなら、今日は来ておくれ。私はお前の頭を洗って、花を飾ってあげよう。お前の親戚や近所の人人がお前が来るのを待っている。ナーグ・ティダーバーンヌアがお前をまっている。来て朝食をともにしておくれ。私達は卵をお前にあげよう。昔の習慣にしたがって今日は吉日だという。私はお前たち2人が両親となるように連れ添わせよう。

(5) 得度式のスーグ・クワン

シー・シー、スグサワディー。私たちは祖父母、両親、親類に敬意を表わします。私たちは今得度式のために招魂祭をします。お前は両親と親類の人から許しをえて得度式をあげ、仏門に入ろうとしている。苦難はこの世界とともにある。お前は年をとるし、病気に悩まされ

る。お前は死に、けっしてもとに戻らないと信じている。そこでお前は功德を積まねばならない。お前が子供のとき、母親は日に2, 3回御飯を噛んであたえた。お前の母親は日に2度も3度も水浴させてくれた。母親はお前のために食物を探し、雨が降り、稲妻がすると母親はお前を抱いた。お前が眠ると、ハンモックに入れた。起きると、お前を抱き、ほめたたえた。大きくなるまでお前の世話をみ、見習僧の得度式をすませた。そしてお前は十戒を学んだ。

20才になったとき、お前は親類や友人のところに出かけ、得度式の援助をしてくれるように頼んだ。ある人は毛布を、ある人は黄衣を、ある人は上衣を、ある人は下衣を、ある人は肩衣を、ある人は托鉢を、ある人は草履とベルトを与える。また鉛筆、食物、碗と皿と瓢、ナイフ、マット、檳榔子とタバコをあたえる。たくさんの品物が心からあたえられる。それはかれらが苦難からのがれ、数百年にもたつる長寿を獲得するための行為である。4つの徳目とは長寿、健康、安寧、威力である。

私たちは得度式をしよう。森林にさ迷ったり、悪霊と友達にならないでおくれ。猿の声、野鶏の声を聞いても、躊躇するな。森の悪霊、猿、狐、ライオン、虎などと一緒に住むな。山、沼沢、河などをめでるな。私たちは得度式のスーグ・クワンをおこないお前を祝福する。ヤヤトッパワン、チャヤマン、カラ、ニパーナパットチャヨーホトッ。

(6) 普通のスーグ・クワン

旧6月が来ると新しい年が始まる。雷と稲妻をともない、雨は花を潤す。露のために魂は寒さにおびえる。クワンよ、来ておくれ、遠くへ行かないでおくれ。香のよい花レーテー、マーテー、ラガーの花も咲きはこっている。テーンチャムピアの花も地に咲きみだれている。谷の下は明るい。お前が遠くはなれると、母親は心配して嘆く。クワンよ、森の中を迷うことなかれ。主の頭に戻り、龍と戯れることなかれ。クワンよ、安心してこちらに来ておくれ。櫛も衣類もある。香のよい木チャンダイやチャンホームもある。すべてお前のために用意してあるのだから。檳榔子、バナナ、砂糖きび、ココナツ、カレー・スープ、それから鶏も。急いでおいで、急いで。6月の末は尾長猿が吠える。外は雷と稲妻ばかりだ。クワンよ、主の頭にとどまって、宙に迷うことなかれ。空には鳶がいる。遠くへ1人で行くな。クワンよ、戻っておくれ。卵もあるし砂糖もある。来て食べてください。来ておくれ。そして安らかにとどまっておくれ。5つの悪霊に打ち勝て。クワンよ来ておくれ。クワンよ。

最後に、これら招魂儀礼にさいしては多数の親戚と知人が参加する。祈禱がおわると、祈禱師は当人の腕首に糸を巻きつけるが、つづいて参列者全員が同じことを繰り返す。そして病気の快復、無事息災を祈りながら合掌する。さらに援助のしるしとして幾ばくかの金を掌や器においたりする。当人は手を差し出し、これらの人人に応える。それは当人がよく知っている親戚であり、友人である。捲糸がおこなわれている間、当人は多数の情愛を感じて、一種の安心感を覚えるにちがいない。

8 お わ り に

以上、調査部落ドーン・デーンッにおける宗教上の諸活動と村人の信仰態度を記述してきた。かれらは仏陀に帰依し、クン・プラ・タム（呪文・護符）の効力を信頼するとともに、クワン（靈魂）の存在を信じ、またテーワダー（天人）に加護を求める。ピーター・ヘーグ（田の神）、トゥーカタープー（村の神）のごとき守護靈にたいしては疑惑の念を抱き、仏教やクン・プラ・タム信仰により、ほとんどその形態と機能を失っている。しかし悪霊の存在については不幸や禍の原因として根強く村人の心にとどまっており、積極的に除祓儀礼がおこなわれる。宗教上のこれらすべての諸活動は、形態的にみれば、歴史的に異った要素から構成されている。しかし各要素からなる混合物は全体として一つの機能を果している。それに対応する基本的価値は「あらゆる危険な存在からのがれ、安全を求める」態度のうちにみられる。具体的には善業、長寿、健康、安寧、威力が「望ましいもの」として認められている。

身体に宿るとされるクワンは生命の本質であり、身体の諸活動と精神活動を司るが、身体からの永久的な離脱は死として、一時的不在は夢の原因とされ、さらに不健康、病気、事故などの禍のもととかがえられている。したがって健康を保持し、病気の快復を願い、長寿を望み、安寧をもとめて招魂儀礼がおこなわれる。積極的にクワンを呼び身体にとどまるように祈禱することがその儀礼の中心である。悪夢や病気は、クワンを怯えさせ、また追出す悪霊の仕業でもある。悪霊の種類は多く、症状にしたがって、個々の悪霊にたいして除祓儀礼がおこなわれる。招魂儀礼においても、除祓儀礼においても、つねにテーワダーが招かれ、その慈悲の力が求められる。さらに悪霊その他害をおよぼす危険な存在を遠ざけ、安全なものをひきつける力を持つものとしてクン・プラ・タムが信じられており、個人のみならず、家や村の安寧と繁栄を増加する上において村人の心を深くとらえている。それは仏陀の言葉の呪術的使用にほかならないけれども、村人の信仰体系のなかで大きな比重を占めている。一切の危険と苦難からの解放、長寿、健康、安寧、威力を獲得することは、仏教的な文脈においては善業によるのみ可能である。寺院や僧侶にたいする寄進行為はすべて善業と解せられており、死後クワンは功德と悪徳の衡により天国に生れたり、地獄に生れかわったりする。普通、天国とは社会的、経済的により高い地位に生れかわることとして、地獄とはより低い地位に生れかわることとして解釈されている。部落の宗教的諸活動を要約すると上記のごとくであり、そこには「あらゆる危険な存在からのがれ、安全を求める」という態度が一貫してみいだされる。この部落の宗教活動は形態的にはさまざまな要素から構成されているが、各要素間の接点は上に記したような基本的態度のうちにみいだされるのではなかろうか。